

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	演劇
----	----	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃせいねんげきじょう 有限会社青年劇場	団体ウェブサイトURL	https://www.seinengekijo.co.jp/
代表者職・氏名	代表取締役 福島明夫		
制作団体所在地	〒 160-0022	最寄り駅(バス停)	新宿
	東京都新宿区新宿2-9-20 問川ビル4階		
電話番号	03-3352-6990		
ふりがな 公演団体名	あきたうじゃく・ひじかたよしきねんせいねんげきじょう 秋田雨雀・土方与志記念青年劇場	団体ウェブサイトURL	製作団体に同じ
代表者職・氏名	代表 北直樹		
公演団体所在地	〒 製作団体に同じ	最寄り駅(バス停)	
	製作団体に同じ		
制作団体 設立年月	1964年 2月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 福島明夫 取締役 葛西和雄	劇団構成員 劇団員62名/準劇団員5名 /研究生4名/団友/25名	
事務体制 (専任担当の有無)	他の事業と兼任の事務担 当者を置く	本事業担当者名	白木匡子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	本田陽子

<p>制作団体沿革</p>	<p>1964年日本新劇界のパイオニア、秋田雨雀と土方与志に戦後教えを受けた俳優・演出家を中心となって結成、今年創立58年を迎えます。創立以来劇団制に基くアンサンブルの重視、アクチャルな演劇創造を特徴とし、日本近現代劇、海外の作品などを意欲的に上演してきました。又、劇団活動の一つの柱として青少年のための優れた演劇の創造を追求、年間100回程度の学校公演公演や子ども劇場での公演を続けてきております。 この間、文化庁芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)・日本芸術文化振興会(日本劇団協議会主催事業・高校生のための巡回公演)・文化庁(文化芸術による子供育成総合事業)に採択されています。</p>		
<p>学校等における公演実績</p>	<p>創立から青少年の為の公演を劇団活動の大きな柱として、北海道から沖縄まで、全国各地での公演を行ってきました。現在も年間1作品から2作品で全国の高等学校・中学校での公演を行っています。近年は高等学校での公演数が減少していく中、地域の方とも協力して、様々な公演の形を追及し、青少年のための公演充実を務めています。</p> <p>文化庁以外の学校公演等の実績 「オールライト」瀬戸山美咲＝作/藤井ごう＝演出 2015年～2019年189st 「野球部員、舞台に立つ!」福山啓子＝作/演出 2012年～2015年262st 「きみはいくさいに征ったけれど」大西弘記＝作 関根信一＝演出 2018年～2022年現在で134st 「あの夏の絵」 2015年～2022年現在で112st</p>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>平成24年度本事業による「博士の愛した数式」で実施</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://gakko-kouen.seinengekijo.co.jp/work/anonatsunoe/</p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p></p>
<p>PW:</p>		<p></p>	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 秋田雨雀・土方与志記念青年劇場】

対象	小学生(低学年)		/
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	あの夏の絵		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	「あの夏の絵」 作・演出/福山啓子 美術/石井強司 照明/河崎浩 選曲/堀沢宏幸 音響効果/石井隆 衣装/宮岡増枝 <div style="text-align: right;">公演時間 120 分</div>		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況
演目概要	舞台は広島市内のとある私立高校。美術部顧問の岡田が持ち込んだ「被爆証言を聞いて絵に描く」取り組みに参加する事になった三人の高校生。被爆三世のメグミ。東京から引っ越してきて、平和教育には全く興味のないナナ。漫研と兼部しているアツト。それぞれが証言者・白井の話を書く中で、心を突き動かされていくが…。広島市立基町高校創造表現コースの生徒たちが取り組んでいる実践をモデルに、2015年福山啓子の書き下ろし・演出で初演。その後全国各地での公演を行い、創造的にも高い評価を頂き2018年にはNHKBSプレミアムステージで放映されました。		
演目選択理由	被爆者の高齢化が進む中、被爆の継承をどのようにしていくのか大きな課題になってきています。そんな中、作者は広島市立基町高等学校での「原爆の絵」の取り組みに出会いました。約一年をかけて、創造を絶する被爆の実情を証言者から聞きとり、それを忠実に絵にしようと、悩み苦しみながらも必死に取り組んでいる高校生の姿は、出来上がる絵を見る事で、封印された記憶が呼び覚まされていく被爆者。世代を超えて「被爆の実証」に向き合うそれぞれの姿を通して「継承」という新しい形が生まれています。この取り組みを舞台化し、多くの皆様に御覧頂きたいと「あの夏の絵」は作られました。「核兵器禁止条約」が2021年採択されるなど、世界での平和に向けた動きが進んでいます。この作品を通じて「平和」「戦争」などの問題を、過去から未来にどのようにつなげていく事ができるのか、共に考えることができればと思います。		
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	生徒さんには本編の始まる前の「ダビンチ先生とミケランジェロ君の絵画教室」というシーンに参加して頂きます。事前のワークショップで生徒さんの一つの「お題」を提示します。そのお題に対してイメージを膨らませ一つのシーンを身体を使って表現する「静止画」を作ります。本番ではその静止画を「ダビンチ先生とミケランジェロ君の絵画教室」の中で発表します。その静止画のタイトルを観客の生徒さんに当ててもらいます。その事で観客も見ただけでなく主体的に参加する事ができます。本番はできるだけ生徒さんたちと劇団員が触れ合う時間を作ります。仕込み見学、バックステージ等、普段は観られないスタッフの仕事を通して、体育館が劇場に変わっていく様子を近くで体験できます。終演後俳優さんを囲んで座談会を行い、お芝居の感想や、質問など俳優さんと交流する場を作ります。		
出演者	藤井美恵子/広戸聡/永田江里/藤代梓/傍島ひとみ/星野勇二/松田光寿/津曲海七斗		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 8 名 スタッフ: 9 名 <hr/> 合計: 17 名	運搬	積載量: 5.5 t 車長: 9 m 台数: 1 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～13時		13時30分～ 15時30分	無し	15時30分～ 17時30分	18時

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	12日	10日	0日	0日	0日	
	11月	12月	1月	計	22日	
	0日	0日	0日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	10名
		鑑賞人数目安	400名

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。



(写真前半1)
基本は体育館の側面に舞台を設置します。
生徒さんにより舞台を近く見て頂くことができます。
体育館の広さなど条件は特にありません。



(写真②)
体育館の舞台を使用する場合。
体育館の舞台に必要な広さは
奥行約4m



(写真③)
「あの夏の絵」舞台写真
椅子とキャンパスのみのシンプルな舞台
が、照明や音響によって、教室や海辺な
どのシーンに代わっていきます。

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	100名
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>授業時間2コマを使い、前半後半に分けて行います。前半は希望する生徒全員でのワークショップ、後半は本公演の劇中劇に参加する(10名)生徒さんの稽古時間です。</p> <p>ワークショップの内容</p> <p>〈前半〉 前半は、まず劇団員の自己紹介をした後、3つのゲームを行います。(別紙に写真)</p> <p>【後出しジャンケン】 参加者の緊張をほぐすため、「ジャンケン」を使ったゲームを行います。一人のリーダーに必ず負けるあるいは勝つ、という単純なルールですが、頭と身体を使う事でウォーミングアップとして有効な要なゲームです。</p> <p>【エア大縄跳び】 身体の準備体操として行います。見えない縄を想像して、全員で「大縄跳び」を跳ぶというゲーム。一体感と達成感が生まれます。</p> <p>【春夏秋冬】 「春夏秋冬」と題したシアターゲームの一種です。参加生徒を、春・夏・秋・冬の4グループに分けそれぞれのテーマで連想出来るものを出し合い、それを身体を使って表現するというものです。一人での表現でも複数の団体表現でも可能とし、テーマごとに考えたものを「1枚の絵」に見立て、配置などを決めて絵を完成させ、テーマごと順番に考えた絵の発表会を行います。チームでの、話し合う時間では、劇団員がサポートして、それぞれの意見を取り入れていくようにします。</p> <p><後半> 10分間の休憩を挟んで本公演で行う劇中劇の稽古をします。あらかじめ台本をお送りし、進行役の2名の劇団員と台本に沿って稽古をします。タイトルは「ダビンチ先生とミケランジェロ君の絵画教室」。絵が描けず悩む2人の画家が10人の生徒の力を借りて絵を完成させる、といった内容です。前半で行った春夏秋冬ではないテーマ(ワークショップ時期にちなんだもの)を劇団員と一緒に考え一つの絵を作ります。</p>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>最初に劇団員が分かりやすいニックネームを書いた名札を付け、その名前を大きな声で呼んでもらうことから始めます。限りある時間の中でワークショップを楽しんでもらう為、親しみやすさと、声を出すことにより、出来るだけ早く緊張している心を解し、距離を近づけることを目的としています。</p> <p>後出しジャンケンでは、わざと負けたり、勝ったりすることで楽しく頭と身体を解放する事、エア大縄跳びでは共同作業、一体感そして創造する事の楽しさを感じてもらい、最後の春夏秋冬は協力し、皆で一つのものを作り上げる喜び、完成した時の達成感、体を使って表現することの楽しさを体感してもらいます。</p> <p>ワークショップを通して新たな自分、他の生徒の一面を発見する場でもあり、先生も普段見ることの出来ない生徒たちの姿を見ることが出来ます。</p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>参加人数は学校の希望を聞きながら、なるべく希望する生徒さん全員が参加できるように行います。</p> <p>ワークショップを通して普段の授業では見られない生徒さんの姿や思考を発見する場として、先生方にも多く参加をお願いします。(見学も含め)終了後、先生方との懇談の時間をとって、講師と先生方との振り返りを行い、生徒さん達の変化などについて意見交換を行います。</p>		

リンク先

No.3

【公演団体名 秋田雨雀・土方与志記念青年劇場 】



講師自己紹介



後出しジャンケン

ワークショップの様子



エアークロップ



春夏秋冬